

V02a First Light of Subaru IRCS

小林尚人、Mark Weber (国立天文台ハワイ観測所)、寺田宏、後藤美和 (京都大学理学部)、
Alan Tokunaga (ハワイ大学天文学研究所)、ハワイ大学 IRCS チーム、すばるチーム

IRCS (Infrared Camera and Spectrograph for the Subaru Telescope) は、「すばる望遠鏡」の標準近赤外観測装置として開発され、現在ハワイ観測所において望遠鏡搭載前の最終冷却テストの段階にある。IRCS の特徴は、すばる 8m の集光力に加え、2 つの 1024x1024 InSb 赤外検出器を用い、地上観測で現在可能な限りの高感度 / 広波長域の近赤外撮像 / 分光機能を提供することにある。分光機能は grism を用いた低中分散 ($R=100-1,000$) から Echelle grating を用いた高分散 ($R=20,000$) までを広くカバーしている。とくに、すばるの補償光学 (AO) によってもたらされる回折限界像に合わせたスリット (0.1-0.2 秒角) を用いることにより、高空間分解しながらの分光を可能にすることが最大の特徴の一つとなっている。

IRCS は 2 月から 3 月にかけて「すばる」への搭載を予定しており、本発表では First Light の結果を紹介できればと期待している。